

# くろゆり通信



第41号 平成18年12月発行  
発行者 土地交通省中部地方整備局  
天竜川上流河川事務所  
小渋川砂防出張所  
小渋川砂防安全協議会



## もみじ祭りが天気に恵まれ盛大に行われました。

毎年秋の恒例となっている、中川村観光協会主催の小渋もみじ祭りが好天に恵まれ約1,300名の来場者により盛大に行われました。北野建設株式会社が砂防堰堤を造っています。

北野建設株式会社が砂防堰堤工事作業所もブースを設置し、当社スキー部（荻原・健司・上村・愛子）のサイン色紙の提供や、ポップコーンや伐採木の無料配布を行い、小渋もみじ祭りに参加協力致しました。

### 小渋釣堀場



北野建設が配布したパンフレット



### 小渋ダム湖内巡視体験ボート



### 四徳温泉 木工体験



## 大草・四徳の石造物



### 南陽詰所の石造物



南陽詰所の横、屋号外出(そとう)の伊藤家の西側に、昔の荷車くらはいは通れそうな旧道が残っています。その旧道に下りると、彫りの鮮やかな石造物群があります。

どうしりと構えた高さ190cmの名号塔は、文化5年(1808)に南山方下村連中の建立。その横にある丸彫りの如意輪觀音像は、寶曆8年(1758)の建立です。さらに延享3年(1746)の庚申塔・青面金剛像があり、寛政4年(1792)の馬頭觀音像も並んでいます。ここは1700年代の石造物ぞろいですが、如意輪觀音像以外は年数の割に風化されていないことに驚かされます。

### 大張の石造物



大張では集会所跡に石造物が固まって残っています。石垣の上に鍵の手状に並ぶ石造物群はおそらく三六灾害以前のままでしょう。中には享保16年(1731)の名号塔、宝曆6年(1756)の經典供養塔、寛政12年(1800)の地蔵菩薩像があつて、年号は不詳の寒窓供養塔や如意輪觀音像、双体道祖神像もあります。これらは皆同じころのものと見られます。

集会所跡の石垣の下の県道に沿って、7基の石造物が並んでいます。昔のままなのか、災害後に集めて並べられたのか定かではありません。ここには庚申塔が4基あり、元文2年(1737)、寛政9年(1797)、大正9年(1920)の3基は文字碑で、残る一基は三猿のいる青面金剛像(年号不詳)です。あとは、名号塔一起と、文字が判読できないほど風化している2基の石碑です。

### 銭不動周辺の石造物



銭不動の少し手前に石造物がまとめて建立されています。その中には寛文2年(1662)の銘がある、村内にちつとも古い地蔵菩薩像があります。このほか、享保4年(1719)の地蔵菩薩像、享保11年の寒窓供養塔と青面金剛像、元文2年(1737)の如意輪觀音像などがあり、少し離れて延享2年(1745)の地蔵菩薩像があります。延享の地蔵菩薩像は境地蔵のひとつで、大草・桑原の境に立っています。

銭不動の境内にもまとめて石造物があり、ここに歌碑があります。

大草城 ゆかりの土地に 阵馬在り  
信仰いまに 不動明王 静山 詠

### 鹿養・桑原境の石造物



南陽地区から桑原の地区に入るとこはちょうど林道焼綿(えいわた)線との辻になっています。その辻の桑原側に8基の石造物が並んでいます。一番背が高くて目を引くのは、赤いまだれかけをした丸彫りの地蔵菩薩像。この地蔵菩薩像は境地蔵(古くは他の地区や村との境に建てた地蔵)のひとつ。像の左側面に「延享丑」(1745)と刻まれ、像の後ろには「桑原三人」と彫っています。

境地蔵の隣に、もう一体の地蔵菩薩像があります。半肉彫りのため帽子やだれかけも着いていませんが、持ち物から見て延命地蔵です。宝永2年(1705)の建立で、この一角ではもっと古い年号が刻まれています。

このほか年号不明の丸彫り聖観音像があり、江戸時代後期から明治期にかけての馬頭觀音碑が並んでいます。

「中川村の石文化財(中川村教育委員会発行)」より

現場代理人の横山です。この工事は本堤、副堤、側壁、根固めブロックからなる砂防堰堤工事を主体に行っております。

工事現場のある中川村四徳は、多くの動植物が生息する自然豊かなところなので、施工に際しては、この大自然を守るために環境保全には十分に配慮しております。これから厳冬期に入り施工に困難な状況が続きますが、安全には十分留意していくたいと思いますので皆様のご理解と協力の程をお願いします。

また地域の皆様に開かれた現場を目指しておりますので、現場を見学したいとのご要望があれば是非、小渋川砂防出張所(0265-39-2301)までご連絡ください。

連絡先/北野建設株式会社

現場事務所/0265-88-3846

本社/長野県郡町524

TEL 026-233-5111

現場代理人 横山 慎太郎

